

分野：健康

テーマ：口腔プロバイオティクスについて

歯科衛生学科 教授 小原 勝

◆概要

歯科疾患の多くが自己の持つ口腔常在菌によるものであることを一般の方はご存じないようです。口腔細菌の由来、共存して私たちにメリットがあること、デメリットなどを述べていきます。

◆内容

歯科疾患の多くが自己の持つ口腔常在菌によるものです。う蝕の原因菌とされるミュータンス菌は家族内から離乳期に乳児口腔に引き継がれるといわれています。また歯周病原菌もすでに小学生期には学童期の口腔に存在するとの報告もあります。

これらの菌は口腔常在菌として人と共存し、利益・不利益をもたらします。不利益は上記に挙げたような、う蝕・歯周疾患、すなわち歯の痛み、歯茎の腫れ、膿などです。一方共存する利益として凶悪外来菌が口腔に感染しようとしたとき、常在菌叢がそれらの定着を妨げるプロバイオティクスとして働くのではないかとされています。口腔細菌叢が民族とか家族で似ていることから、とどのつまり「家庭のぬか床」を家庭内で継承していくというということに似ているような気がします。

最近注目されている「腸内細菌」の大切さ！と同様、「口腔細菌叢」の大切さをお伝えしたいと思います。

◆出講可能な時間帯

4月～7月（前期）月曜日（午前）、水曜日（午前）、金曜日（午前）

10月～1月（後期）月曜日、火曜日、水曜日（午前）、金曜日（午前）

※なお、この時期・時間帯以外でのご依頼の場合には生涯学習係りまでお問い合わせ下さい。

（1）専門分野・・・口腔細菌，総合歯科

（2）主な担当科目・・・微生物学

（3）一言メッセージ・・・ICD（細菌感染制御医）でもあり、口腔常在菌を通して歯科業界に携わり、教育・研究活動をしています。